

くれよん もり組

気温が低い日が増えいよいよ冬本番ですね。1月はもり組さんだけで散歩に出かけるとお兄さん、お姉さんがいない自分たちだけで行けるお散歩に大喜びの子どもたちでした。ルールを守って自分たちだけで目的地まで行けて、沢山遊んで帰ってこられたことがまた一つ自信にもつながったようです。お部屋でもアキシモやリモーザといった細かいものを扱うおもちゃに集中して作品を完成させると事務所の大人に見せに行き沢山の人に褒めてもらったり、描いた絵や作品を飾ってお友達に「すご~い」と言われたり・・頑張ったことを褒めてもらうことで少しずつ自信に繋げていっているもり組さん。自信がつくことで次へのステップにつながりいろいろなことに意欲的にチャレンジしていってくれると嬉しいなあと思っています(^^♪

幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿

「社会生活との関わり」

幼児期の終わりにまでに育ってほしい「10の姿」の中に「社会生活との関わり」

という項目があります。

これは、家族を大切にしたり、身近な人と触れ合って地域に親しみをもつようになつたりする姿のことを示しています。家庭内だけではなく、様々な人との関わりやふれあいを通じてつながりを広げ、社会性を育んでいきます。

お正月、おじいちゃんおばあちゃんに会ってたくさん楽しい時間を過ごしたり、どんど焼きを見に行ったりというのも、こうした力につながる経験となります。

お散歩で行った縄文の村で、お掃除している職員さんに挨拶をしたり、何をしているのかな?と興味を持ったり。

先日は、職場体験の中学生が遊びに来てくれて、子どもたちと遊んでくれました。

保育園生活の中での様々な経験が、「社会とのつながりの意識」へと繋がっていってほしいと思っています。

わらべうたって?

大人や友だちとふたりで一緒に遊んだり、大きな集団で楽しんだり、様々なシチュエーションでわらべうたを楽しんでいる子どもたち。わらべうたは、昔から子どもたちのそばにあり、大人と子どもが同じ時間、同じリズムを共有できるあそびです。繰り返しのある言葉やゆつたりとした節回しは子どもにとって心地よく、気持ちが落ち着いたり、安心して人と関わることができたり、言葉やリズム感が自然に育つといった良い影響があります。

今回は、これまで遊んだわらべうたや、これからやる予定のわらべうたをいくつかご紹介させていただきます。

22 かりかりわたれ



◆自由歩き◆

広い空間があれば、大人が先頭に立ってうねり歩きや8の字歩き。園庭では、池や砂場のまわりを歩くこともできる。狭い所では、大人が先頭でうずまき歩きなど。



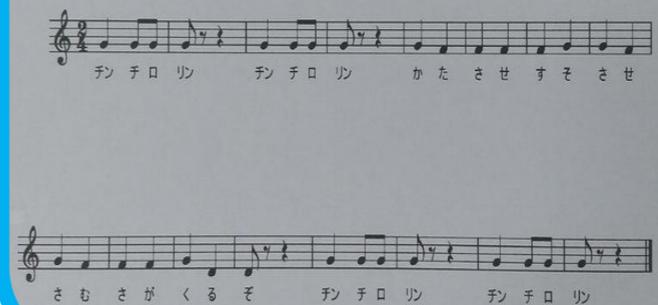
◆隊伍を組んでの遊び◆

満を巻き、またほどいていく。先頭の子を中心にできるだけ固くうすをまく。すっかりまききったら1度歌を止め、しっぽの子を先頭に輪をまきもどす。もどったら先頭だった子がすぐに鬼きめをし、次の先頭を決める。鬼きめをした子はしっぽになる。

かりは冬鳥でがんというのが正式な名称です。保母はがんの習慣や姿の特徴を知り、頭に描けるようにしましょう。

♪チンチロリン チンチロリン
かたさせすそさせ さむさが くるぞ
チンチロリン チンチロリン♪

♪チンチロリン♪



鬼が輪の真ん中で目を閉じて周りの子どもたちがベルの音が鳴らないように回しています。歌の最後にベルを持っている子が鳴らして、鬼は聞こえてくる方向を指で指します。当たったら鬼を交代。鬼になりたくてベルを回さない子もいました(笑)